



<フィリピン・リサーチレポート>

情報提供用資料

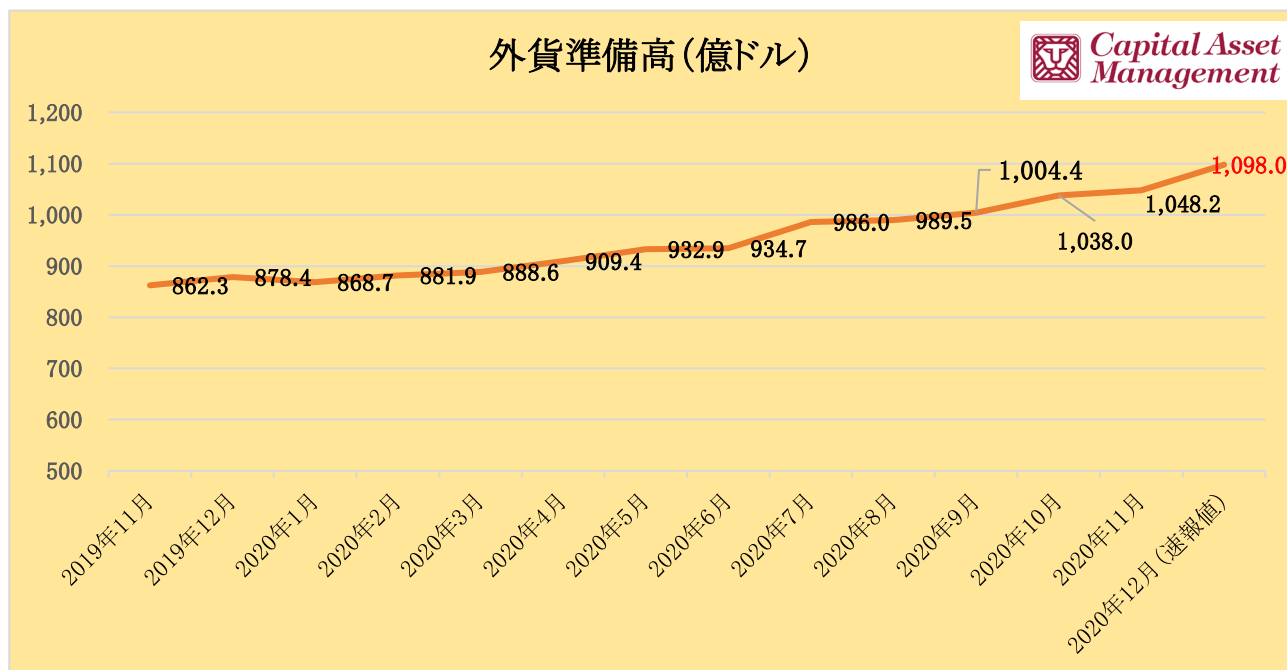
2021年1月18日

フィリピンの2020年末の外貨準備高 11カ月連続増で1,098億ドル

フィリピン中央銀行の発表によれば、外貨準備高(GIR、速報値)が2020年末時点で1,098億ドル(約11.4兆円)となった。11カ月連続の増加となり過去最高を更新。中銀の為替取引やグローバル債券の発行および保有金価格の上昇が増加の原因。

内訳を見ると、海外投資が934億米ドルと全体の約85%を占め最大。金保有額が117億ドル、外国為替が27億ドル、国際通貨基金(IMF)の特別引出権(SDR)が12億ドルなどと続く。

同国の外貨準備高は、モノ・サービス輸入などの11.7カ月分、短期対外債務(元本ベースの短期負債)の9.6倍に相当しており、十分な流動性を確保している。



<http://www.capital-am.co.jp>

ALT: 2020年末のフィリピン外貨準備高は1,098億ドル

以上

当資料は、情報提供を目的として、キャピタル アセットマネジメント株式会社(CAM)が作成したもので、投資信託の売買を推奨・勧誘するものではありません。当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。